

2017年7月20日 全5頁

Indicators Update

2017年6月貿易統計

輸出数量の増勢鈍化は一時的に留まる見込み

経済調査部
エコノミスト 笠原 滝平
エコノミスト 小林 俊介

[要約]

- 2017年6月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+9.7%と、前月（同+14.9%）からプラス幅が縮小した。前年比で見た輸出数量のプラス幅が縮小（5月：同+7.5%→6月：同+4.0%）したことが影響した。また、6月の税関長公示レートは110.9円/ドルと、前年比で見ると2.2%の円安水準にある。
- 季節調整値で見た輸出金額は前月比▲0.3%とわずかに減少、輸出数量は同+0.2%（季節調整値は大和総研による）と2ヶ月連続で増加した。輸出数量を地域別に見ると、米国向けが同+1.5%と増加した一方、アジア向けが同▲0.7%、EU向けが同▲4.4%と大幅に減少した。ただし、EU向けの落ち込みは一時的なものであり基調に変化はない。
- 先行きの輸出について、海外経済が底堅い成長を続けるなか、欧州向け輸出を中心に、緩やかな増加基調をたどるとみている。ただし、外需に関しては下振れリスクに警戒が必要である。特に、米国ではFedが利上げと保有資産の圧縮を行うことが見込まれ、これに伴い、米国経済の減速や新興国市場からの資金流出を招く可能性がある。

図表1：貿易統計の概況（原系列、前年比、%）

	2016年			2017年					6月
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
輸出金額	▲10.3	▲0.4	5.4	1.3	11.3	12.0	7.5	14.9	9.7
コンセンサス									9.5
DIR予想									9.0
輸入金額	▲16.3	▲8.7	▲2.5	8.4	1.3	15.9	15.2	17.8	15.5
輸出数量	▲1.4	7.4	8.4	▲0.3	8.3	6.6	4.1	7.5	4.0
価格	▲9.0	▲7.3	▲2.7	1.6	2.8	5.0	3.2	6.9	5.5
輸入数量	▲2.5	3.6	3.6	6.3	▲4.3	4.2	4.9	5.4	4.1
価格	▲14.1	▲11.9	▲5.9	2.0	5.8	11.3	9.8	11.8	11.0
貿易収支	4,812	1,465	6,359	▲10,919	8,111	6,103	4,792	▲2,042	4,399

(注1) 貿易収支は億円。

(注2) コンセンサスはBloomberg。

(出所) 財務省、Bloombergより大和総研作成

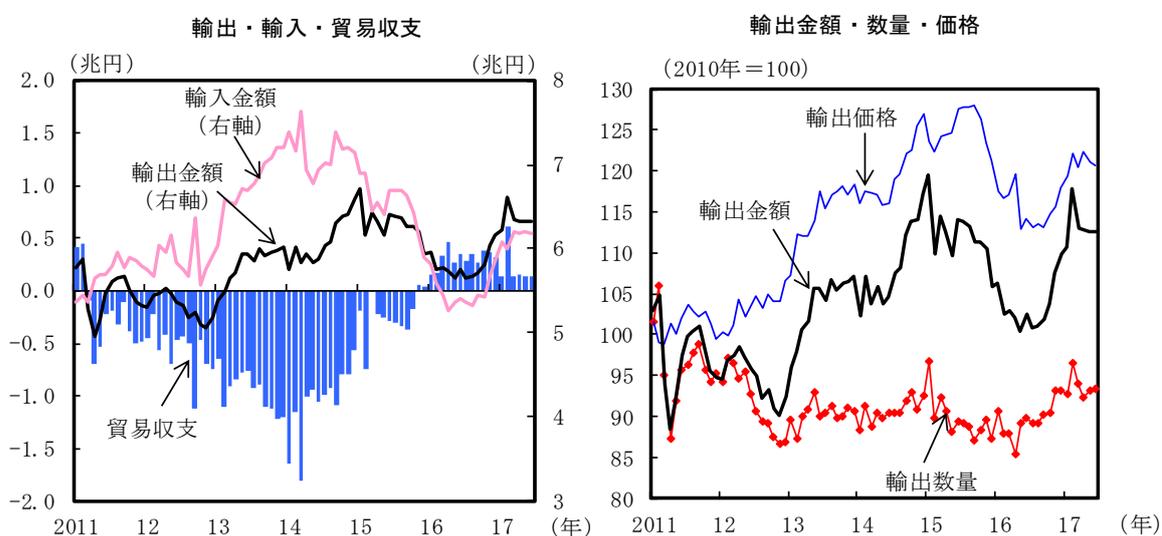
貿易収支は2ヶ月ぶりの黒字

2017年6月の貿易統計によると、貿易収支は+4,399億円と2ヶ月ぶりの黒字となった。輸出金額は前年比+9.7%（市場コンセンサス：同+9.5%）と前月（同+14.9%）からプラス幅が縮小、輸入金額も同+15.5%と前月（同+17.8%）からプラス幅が縮小した。

輸出・輸入金額を数量と価格要因に分解すると、輸出金額は数量要因の低減（後述）によって前月からプラス幅が縮小した。輸入金額は前年の原油価格の水準が上昇したため価格要因による押し下げが生じているが、足下の原油価格は安定的に推移しており基調に変化はない。なお、6月の税関長公示レートは1ドル110.9円と前年比2.2%の円安水準となっている。

季節調整値で見ると、輸出金額は前月比▲0.3%、輸入金額は同+0.4%となった結果、貿易収支は814億円の黒字となり、前月（1,227億円の黒字）から黒字幅が縮小した。

図表2：輸出金額・数量・価格、貿易収支（季節調整値）



(注) 輸出数量、輸出価格の季節調整は大和総研。
(出所) 財務省統計より大和総研作成

EU向け輸出数量の落ち込みは一時的に留まる見込み

輸出数量（大和総研による季節調整値）は2ヶ月連続の増加となったが、前月比+0.2%と前月（同+1.0%）から増加ペースが鈍化した。地域別に見ると、米国向けは同+1.5%と増加した一方、アジア向けは同▲0.7%、EU向けは同▲4.4%と大幅に減少した。

米国向けは、主力である自動車が前月比+5.3%と3ヶ月連続で増加したことが増加の大きな要因である。しかし、2016年まで好調であった米国の自動車市場は、ガソリン価格や金利の上昇、自動車ローンの厳格化などによって足下で鈍化傾向にある。日本からの輸出は依然として高い水準を保っているが、今後は減速する可能性がある。一方、原油価格の下げ止まりから、掘削機などの建設・鉱山用機械、鋼管に改善の兆しが見られる。

アジア向けは、ASEAN向け自動車部品やICの減少が全体を押し下げたとみられる。ASEANの

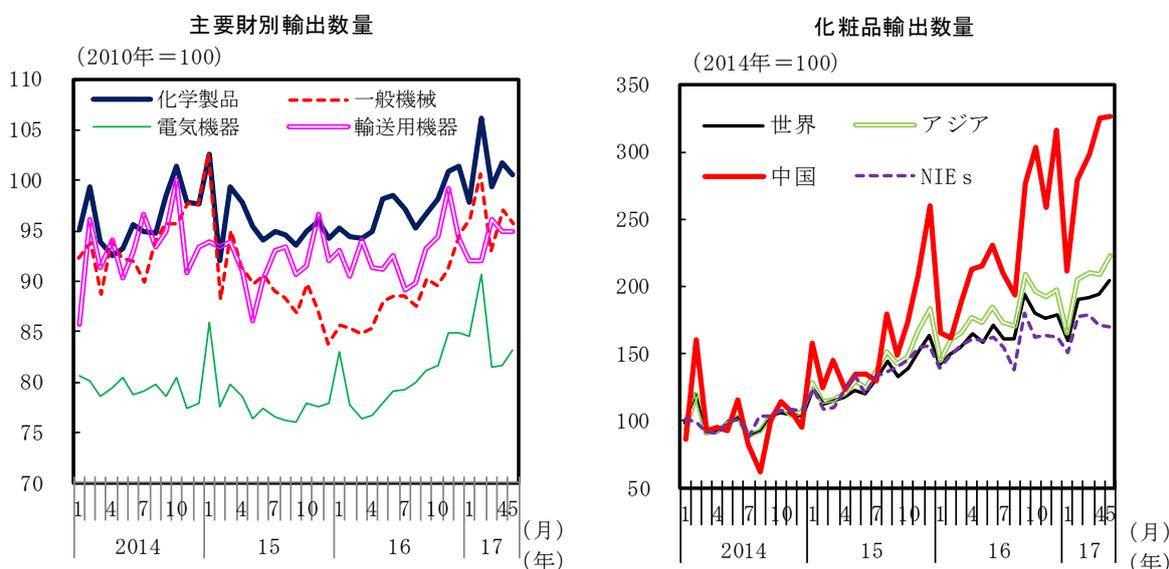
一角を担うタイでは、これまで回復傾向にあった自動車販売が、足下においては所得の減少やそれに伴う消費者マインドの悪化により鈍化しており、日本からの輸出を押し下げている可能性がある。中国向けは自動車の部分品が減少する一方、ICは増勢を保っており、総じて横ばい圏内の推移となっている。

EU向けは、5月が特殊要因（大型客船の引き渡しがあったとみられる）によって押し上げられており、6月はその効果が剥落して大幅なマイナスに転じたとみられる。EU向け輸出の落ち込みは一時的に留まる見込み。EUの生産や個人消費は堅調に推移しており、日本からの輸出でも素材であるプラスチックや自動車、自動車の部分品などの増勢が続いている。

輸出数量を財別（2017年5月までのデータ）に見ると、足下では他の主要財が伸び悩む中、化学製品は増加傾向を維持している。特に化学製品の輸出をけん引しているのが化粧品である。化粧品の輸出は2014年に比べて倍以上に成長しており、中でも中国向けの増加が顕著で、既に3倍を超える伸びとなっている。インバウンドにおいて日本製の化粧品が注目される中、近年はEC（電子商取引）による販売も伸びており、こうした流れが日本からの化粧品輸出を後押ししているとみられる¹。

なお、4-6月期の輸出数量は、1-3月期に急増した半導体等製造装置などの反動減から前期比▲1.5%と4四半期ぶりの減少に転じる見込み。輸出数量は財の動きだけを捉えており、さらに付加価値の変動が加味されていないため、そのままGDP統計の財・サービスの輸出と比較することはできないが、財の輸出が実質GDPを下押しする可能性が高まったと言えるだろう。

図表3：化粧品の輸出が堅調



(注) 季節調整は大和総研。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

¹ 経済産業省の調べによれば、2016年の中国による日本からの越境EC消費額は1兆366億円と前年から30.3%増加した。

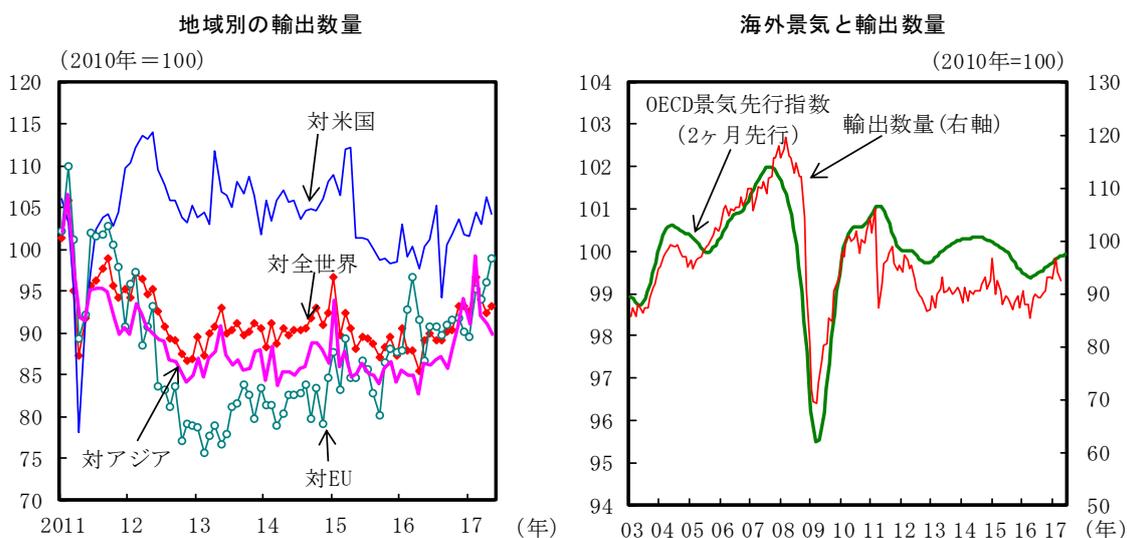
<http://www.meti.go.jp/press/2017/04/20170424001/20170424001.html>

欧州向けを中心に、先行きは緩やかな拡大を見込む

先行きの輸出について、海外経済が底堅い成長を続けるなか、欧州向け輸出を中心に、緩やかな増加基調をたどるとみている。アジア向けに関しては、これまで世界的な IT サイクルによる電子部品や半導体製造装置等が堅調に推移してきたが、足下で一服感が見られる。また、一部の国においては自動車販売の減速が見られる。一方で、自動車販売に弱さが見られるものの、米国経済は回復基調にあり、米国向け輸出は緩やかに増加する見込み。また、EU 向け輸出は単月では減少に転じたものの、欧州経済はこれまでの景気牽引役であった個人消費に加えて、足下では設備投資などの固定資本形成も伸びており、バランスの良い景気拡大局面へ移行している。

ただし、外需の下振れリスクには警戒が必要である。米国では、Fed が 2017 年 6 月に利上げを実施し、年内に更なる利上げと保有資産の圧縮を行うことが見込まれる。これらに伴い米国の金利が上昇する場合には、米国経済の下押し圧力になることに加えて、新興国市場からの資金流出を招く可能性がある。また、EU においても来年以降の資産買い入れの圧縮（テーパリング）などが発表される可能性があり、同様に EU 経済の下押し圧力となりうる点に留意が必要だろう。

図表 4：地域別の輸出数量、海外景気と輸出数量（季節調整値）



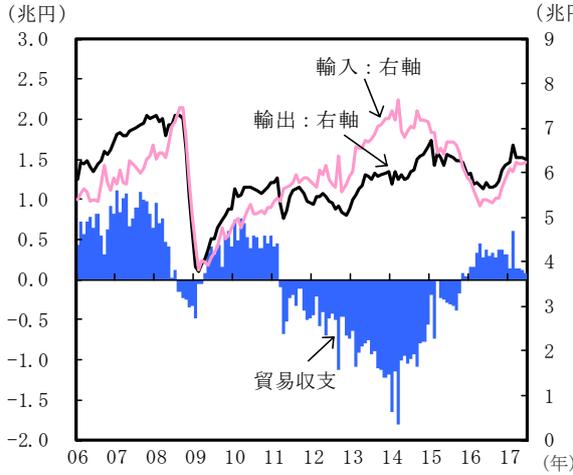
(注1) OECD景気先行指数(CLI)はOECD諸国とBRICsなど非加盟6ヶ国を集計したベース。

(注2) 輸出数量の季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、OECD統計より大和総研作成

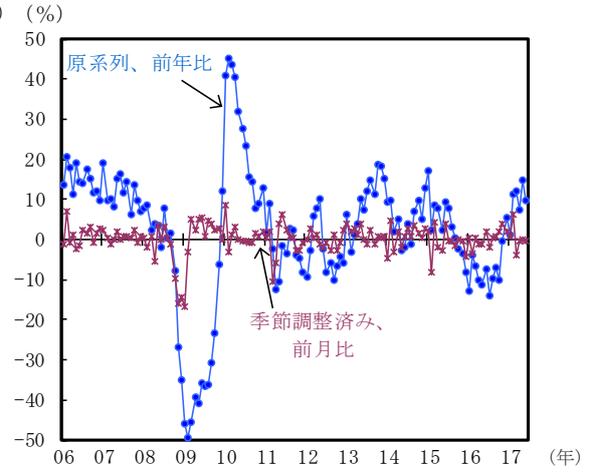
概況

輸出入と貿易収支 (名目、季節調整値)

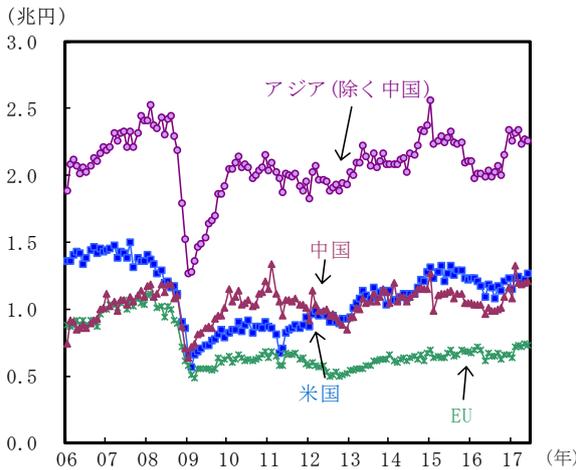


(出所) 財務省統計より大和総研作成

輸出額の変化率 (名目)

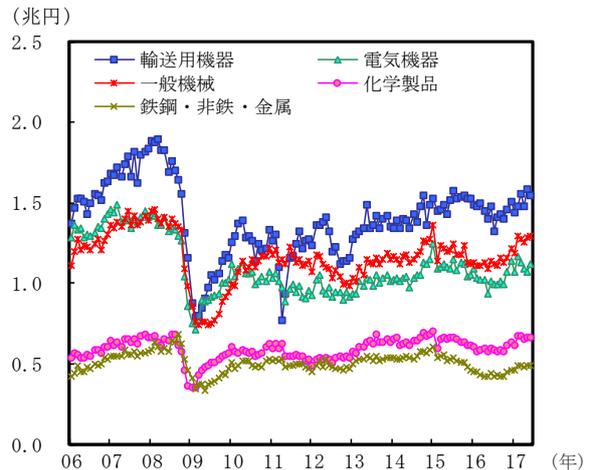


主要地域・国別の輸出額 (名目、季節調整値)

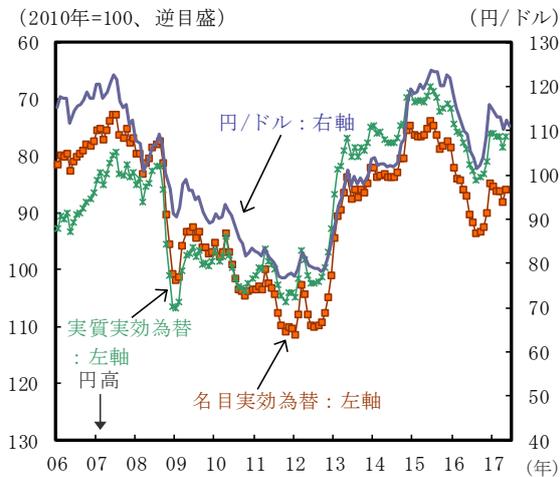


(注) 季節調整は大和総研。
(出所) 財務省統計より大和総研作成

主要商品別の輸出額 (名目、季節調整値)



為替相場



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数 (輸出物価指数/輸入物価指数)。
(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

交易条件

